
ANNUAL REPORT

2004

2004年度 活動報告書

2004.4.1～2005.3.31



EPOC

環境パートナーシップ・CLUB

2004年度活動実績の要約



Summary of Achievements in This Fiscal Year

「循環型経済社会」の構築に向け、中部地区を世界に冠たる先進地域とすべくEPOC諸活動を精力的に展開。特に04年度は、05年3月25日から開催の「愛・地球博連携事業」を重点に、企画の充実と運営体制の強化をはかつて参りました。今年度の主な活動を見てみますと次のようになります。

万博推進事業

今年3月25日より愛知県で開催されている2005年日本国際博覧会「愛・地球博」において、以下の2つの企画事業を開催するため、博覧会協会と協調しつつ万博企画の準備及びその具体的な展開を図りました。

一つは博覧会協会事業「万博エコツアー」の一つである「バックヤードツアー」です。これは博覧会会場内のパビリオンや施設の裏側に隠れた環境技術を見学できるツアーです。会場の先進的な環境技術をEPOCのガイドが弓|率し、ご案内致します。

二つ目は「エコ・トークセッション」です。これはEPOC会員企業のトップと次世代をなう子供たちとの環境トークショーを博覧会会場内で行うものです。子供たちと企業が事前にテーマ学習を通じて交流し、環境について共に学びあいます。

それぞれEPOC会員企業が積極的に参加し企画・運営を担って進めており、各企画事業を通して持続可能な社会の形成について参加者のより深い理解を促しました。

環境経営手法の開発・普及

「EPOC環境コミュニケーションシステム(エコムズ)」を、さらに親しみやすいコミュニケーションツールとするため、登録内容および登録方法を簡素化したエコムズ簡易版を作成し、会員企業の登録を促しました。5社の新規登録があり、登録企業数は全58社となりました。

また、今後の環境経営において話題性・重要性の高い講演・事例紹介を盛り込んだ研究会「これから環境経営」を開催しました。環境経営に取組んでいる、あるいは環境経営を実践しようと検討されている企業の方など、多くの方に参加いただきました。

エコエフィエンシーへの挑戦

持続性のある経済社会の実現に向け、資源及びエネルギーの使用量低減、有害化学物質の拡散防止等を会員が宣言・実行し、再生可能資源の最大限利用等を図っていくことを目指し、省エネルギーや環境ビジネスについてタイムリーな情報提供を行いました。

特に本年度は、中部地区を世界に冠たる環境先進地域とすべく愛知エコタウン事業に対応した研究会を設立し、廃棄物の活用を推進する為の課題、解決策の検討を進めるとともに、環境ビジネス創出に向けた活動を実施しました。また、近年多発している環境汚染事故等の撲滅に向け、未然防止に関する研究会も設立し、更に環境経営、環境リスク管理等の基礎知識の充実を図りました。

啓発の促進

環境行動に熱心に取り組むメンバー企業による、環境技術、専門的な知識を習得するための交流会・フォーラムを開催し、EPOCメンバーのレベルアップを図ると共に、様々なステークホルダーの方々に環境行動の普及を図りました。

社会への浸透

学校や教育機関との連携により、次世代への環境教育を支援するための研究・調査を行うと共に、継続的に環境美化に資する街頭活動への参加など、環境問題に取り組む企業の行動姿勢を示すことにより、社会的な環境問題への意識喚起を図りました。

国際交流活動

欧州視察の実施、海外研修生の受入機関との交流会等を実施し、相互理解を深めることに努めました。

企画活動

部会間にまたがるEPOC全体のイベント活動を推進すると共に、共通課題の検討を行なうことにより、円滑なEPOC運営の基盤を強化しました。

広報活動

会員増強とともに、EPOC活動、EPOC会員の環境行動の紹介などインターネットを活用して積極的な情報提供を図りました。

To realize a recycling-based society, EPOC members are proactively involved in the various activities in the hope that the Chubu region will lead the way for the rest of the world. FY2004 has been a landmark year in this respect: EPOC has increased its planning and further strengthened its management systems, with particular attention paid to the projects related with Expo 2005 Aichi Japan, which started on March 25, 2005. Other main movements in FY2004 include the following.

Expo Promotion Operations

The Environmental Partnership Organizing Club (EPOC) will undertake the following two projects at Expo 2005, a major international fair to be held in Aichi Prefecture from March 25. EPOC will collaborate with the Japan Association for the 2005 World Expo in preparing for the Expo and in the operation of actual events.

The first project is a "Back Yard Tour," which is one of the "Expo Eco Tours" being held by the Expo Association. On this tour, visitors will be able to see numerous environmental technologies that are hidden within the pavilions and other facilities on the Expo grounds. EPOC Guides will lead visitors on this fascinating exploration of the Expo's advanced environmental technologies.

The second project, the "Eco Talk Session," is an environmental talk show at the Expo where top executives from EPOC member companies will speak directly with the children who will bear the responsibilities of the next generation. The children will interact with the companies before the show through studies on selected themes, learning together about the environment.

EPOC member companies will participate actively in each of these projects, and will contribute to planning and operation. We believe that these events will contribute to a deeper understanding among the participants regarding the formation of a sustainable society.

Development and Dissemination of Environmental Management Methods

EPOC has created a simplified version of the "EPOC Environmental Communication System (ECOMS)," featuring an easier and less detailed registration process, in order to encourage registration by new member companies and to promote even smoother communications. Since implementing the new system, five new member companies have registered, bringing the total number of registered companies to 58.

We also held a series of workshops entitled Future Environmental Management. The workshops involved addresses and case studies covering highly topical and important matters relating to environmental management in the future, and enjoyed robust attendance from a large number of companies involved, or considering involvement, in environmental management.

Challenge Toward Eco-Efficiency

As part of efforts to achieve a sustainable economic society, EPOC members have published and executed declarations regarding reductions in the volumes of resources and

energy used, and measures to prevent the release of harmful chemical substances into the environment. EPOC aims to maximize the use of recyclable resources, promote communications regarding energy conservation and environmental risks, and encourages timely publication of information related to environmental business.

This year, we have established a study group that will focus on "Aichi Eco-town Operations," aimed at making the Chubu Region one of the most advanced environmental regions in the world. In addition to promoting discussions regarding issues and resolutions for encouraging the use of waste materials, EPOC is currently involved in activities targeting the creation of environmental businesses. We have also established study groups focusing on reducing the number of environmental pollution accidents, which have occurred with alarming frequency in recent years, by preventing such accidents before they occur, and have been working to accumulate a strong base of fundamental knowledge regarding issues such as environmental management and environmental risk management.

Promoting Enlightenment

EPOC holds gatherings and forums hosted by member companies that are avidly involved in environmental activities, in order to encourage the sharing of environmental technologies and other specialized knowledge. In addition to increasing the capabilities of EPOC members, these activities contribute to the proliferation of environment activities among stakeholders on various levels.

Spreading Acknowledgement in Society

EPOC conducts research to support environmental education for the next generation through collaborations with schools and other educational institutions, and at the same time participates in urban beautification activities to contribute to the maintenance of a cleaner environment. By demonstrating the stance of companies in taking action to resolve environmental problems, we hope to increase the overall awareness of environmental issues throughout society as a whole.

Global Exchanges

EPOC hosts European study tours and gatherings with companies and organizations accepting foreign trainees as part of its efforts to promote greater international understanding.

Planning Activities

In addition to promoting event activities that involve EPOC as a whole, including all of its divisions, we conduct discussions of common issues to strengthen EPOC's foundations so as to ensure smoother operations.

Public Relations

EPOC actively publishes information via the Internet to encourage new membership, and to introduce the Club's own activities as well as the environmental activities of its member companies.

万博推進事業

Expo Promotion Operations

今年3月25日より愛知県で開催されている2005年日本国際博覧会「愛・地球博」において、以下の2つの企画事業を開催するため、博覧会協会と協調しつつ万博企画の準備及びその具体的な展開を図りました。

一つは博覧会協会事業「万博エコツアー」の一つである「バックヤードツアー」です。これは博覧会会場内のパビリオンや施設の裏側に隠れた環境技術を見学できるツアーです。会場の先進的な環境技術をEPOCのガイドが引率し、ご案内致します。

二つ目は「エコ・トークセッション」です。これはEPOC会員企業のトップと次世代をになう子どもたちとの環境トークショーを博覧会会場内で行うものです。子どもたちと企業が事前にテーマ学習を通じて交流し、環境について共に学びあいます。

それぞれEPOC会員企業が積極的に参加し企画・運営を担って進めており、各企画事業を通して持続可能な社会の形成について参加者のより深い理解を促しました。



万博推進事業告知サイト

中日新聞12月21日掲載

瓦搏推進事業告知チラシ

由日フボウ 12月21日掲載

バックヤードツアー

「愛・地球博を支える先進エコシステムを探検!」

博覧会協会と連携しつつツアー見学施設の選定及びツアーコースの検討を進め以下のツアー企画を作成しました。

(1) 実施日：万博開催期間中 原則毎週金曜日開催
(4/中～9/中)

(2) コース：北コース（エネルギーコース）
南コース（循環型システムコース）

(3) 実施時間：各コース2回／日（午前・午後各1回）

(4) 所要時間：2時間／回

(5) 定員：最大30名／回

(6) 対象者：環境技術に関心のある博覧会来場者

尚、ツアー見学施設については博覧会会場内の6施設を決定し、各施設との間で具体的な見学内容の調整を進めました。また、ツアーガイド募集の結果、EPOC会員企業より68名（29社）の応募を頂きました。

バックヤードツアーリハーサル



バックヤードツアー事前レクチャー



バックヤードツアー事前見学

エコ・トークセッション

「地球の未来のこと、みんなで話そう、考えよう」

2005年愛・地球博を契機に、継続的に中部圏の環境先進地形成を行うため、地域の学校・子どもたちとのコラボレーションによるEXPO参加催事を企画しました。参加企業12社、各社のパートナーとなる参加小学校26校、参加児童数約2,500名が確定。平成16年9月30日にEXPO参加催事採用が正式決定し、開催日は平成17年6月6日、7月5日～6日の3日間となりました。

エコ・トークセッション参加企業会議



エコ・トークセッション第1回勉強会



エコ・トークセッション事前学習

環境経営手法の開発・普及

Development and Dissemination of Environmental Management Methods



平成16年4月1日～6月30日

エコムズ簡易版の登録案内

「EPOC環境コミュニケーションシステム(エコムズ)」を、さらに親しみやすいコミュニケーションツールとするため、登録内容および登録方法を簡素化したエコムズ簡易版を作成し、会員企業の登録を促しました。5社の新規登録があり、登録企業数は全58社となりました。

エコムズ簡易版の各社公開ページ

平成17年2月3日 今池ガスビル

EPOC研究会「これからの環境経営」

「これからの環境経営」と題した環境経営に関する研究会を開催しました。環境経営のこれからの動向や課題について、特に京都議定書の発効によりCO₂削減施策がどのように企業経営に影響するのか、またCSR視点での環境コミュニケーションの重要性など、環境経営における話題性・重要性の高い講演および事例紹介を行いました。環境経営の強化を検討されている企業、あるいはこれから環境経営を実践しようと検討されている企業の方をはじめ、多くの方

(115名)にて参加いただきました。



EPOC研究会「これからの環境経営」

エコエフィシエンシーへの挑戦

Challenge Toward Eco-Efficiency



持続性のある経済社会の実現に向け、資源及びエネルギーの使用量低減、有害化学物質の拡散防止等を会員が宣言・実行し、再生可能資源の最大限利用等を図っていくことを目指し、省エネルギーや環境ビジネスについてタイムリーな情報提供を行いました。

特に本年度は、中部地区を世界に冠たる環境先進地域とすべく愛知エコタウン事業に対応した研究会を設立し、廃棄物の活用を推進する為の課題、解決策の検討を進めるとともに、環境ビジネス創出に向けた活動を実施しました。また、近年多発している環境汚染事故等の撲滅に向け、未然防止に関する研究会も設立し、更に環境経営、環境リスク管理等の基礎知識の充実を図りました。

■ 研究会活動

平成16年9月～平成17年2月28日
独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）技術開発機構補助事業

中部地区省エネルギー等普及支援活動研究会

本研究会では、工場・事業所等における省エネルギー技術の導入メニューの具体的な検討方法や、効果予測・導入手順の検討について分かりやすく検討できる手法を取りまとめ、EPOCホームページから一般に幅広く情報発信しました。



平成16年10月～平成17年3月18日

中部経済産業局委託事業

環境汚染事故等の未然防止に関する調査研究会

本研究会では、EPOC会員を含め中部圏の企業から過去の事故事例や未然防止対策などを収集・解析することにより業種ごとに有効な対策に関し、調査・検討しました。



平成16年10月～平成17年3月31日

愛知県委託事業

環境ビジネス創出研究会－あいちエコタウン－

本研究会では、愛知エコタウン事業にて重点的に取り組むこととしている廃棄物7品目の活用課題・解決対策に関し、調査・検討しました。



■ セミナー活動

平成16年9月29日 第9回セミナー

経済産業省委託事業

平成16年度 循環ビジネス人材教育セミナー

環境経営概論

本セミナーでは環境経営概論について環境経営の実践に有効な環境管理手法等に関する実務者に講義頂きました。

会場 (株)豊田自動織機 シャインズ

主催 環境パートナーシップ・CLUB

●講義

- 「環境問題と解決への努力、今後の重点的技術課題」

日和産業(株)環境ソリューションセンター長

並木 慎一郎 氏

- 「環境経営支援手法及び環境経営に関する知識享受」

(株)日立インダストリーズ環境推進センター長

中村 勝彦 氏

●特別講演

「新しいものつくりのかたち～人と地球を考える～」

東北大学教授((株)INAX顧問) 石田 秀輝 氏



平成16年11月1日～2日 第10回セミナー

廃棄物学会との共催事業

廃棄物処理技術

本セミナーでは、廃棄物学会東海・北陸支部と共に、現在廃棄物処理分野において第一線でご活躍中の先生方を講師にお招きし、廃棄物処理に関する分野横断的な基礎知識と基礎技術の修得を目的とした講習会を開催致しました。

●第1日目 11月1日

挨拶

廃棄物学会東海・北陸支部 伊藤 秀章 氏

- 「廃棄物処理の法体系」

静岡大学 恒川 隆生 氏

- 「化学物質と環境分析技術」

名古屋大学 原口 紘氏・藤森 英治 氏

- 「有害有機系化合物の無害化処理」

名古屋大学 松田 仁樹 氏・小島 義弘 氏

- 「廃プラスチックの有効利用技術・分別選別技術」

トヨタ自動車(株) 近藤 元博 氏

- 「バイオ系廃棄物のコンポスト化」

静岡大学 中崎 清彦 氏

- 「バイオ系廃棄物のガス化利用」

名城大学 大宮 邦雄 氏

三重大学 栗冠 真紀子 氏

●第2日目 11月2日

- 「資源循環の考え方と資源循環ネットワーク設計」

豊橋技術科学大学

藤江 幸一 氏・後藤 尚弘 氏

- 「廃棄物のライフサイクルアセスメント」

豊橋技術科学大学 後藤 尚弘 氏

- 「環境・エネルギー・資源と循環型社会」

国立環境研究所 酒井 伸一 氏

- 「金属・無機系廃棄物の再資源化処理」

名古屋大学 藤澤 敏治 氏

- 「焼却の考え方と焼却技術」

豊橋技術科学大学 成瀬 一郎 氏

- 「最終処分場の構造と管理」

日本産業廃棄物処理振興センター 土橋 弘 氏

講習修了証授与

廃棄物学会東海・北陸支部 伊藤 秀章 氏



平成16年11月18日 第11回セミナー

経済産業省委託事業

平成16年度 循環ビジネス人材教育セミナー

環境リスク管理 I

本セミナーでは環境リスク管理 I について化学物質や廃棄物処理等の環境リスク管理に関する実務者に講義頂きました。

会場 (株) 豊田自動織機 シャインズ

主催 環境パートナーシップ・CLUB

●講義

1 「廃棄物・リサイクルガバナンス

～産構審ガイドラインのポイント～」

経済産業省産業技術環境局リサイクル推進課

調査係長 丹下 智氏

2 「日本・海外の有害物質管理と法規制」

「リサイクルシステムと法整備」

(株) 日立製作所 情報事業統括本部推進センター

シニア・マネージャー 神田 英治氏



平成17年1月28日 第12回セミナー

経済産業省委託事業

平成16年度 循環ビジネス人材教育セミナー

環境リスク管理 II

本セミナーでは環境リスク管理 II について化学物質や廃棄物処理等の環境リスク管理に関する実務者に講義頂きました。

会場 産業技術記念館 ホールA

主催 環境パートナーシップ・CLUB

●講義

1 「環境・廃棄物／リサイクル関係法規」

(株) 日立IEシステム 総務部環境管理課

環境担当専任者 豊島 宏二 氏

2 「環境リスク管理の実務」

日和産業(株)第一事業本部 環境ソリューションセンター

部長 菅原 弘道 氏



■ 観察調査

平成16年5月14日 第14回観察調査

東三河地区 環境配慮型事業の見学

地域で取組んでいる環境配慮型事業について観察調査を行い、今後の事業展開における環境対応の一助としました。すべての観察先が自然と地域との共生を目指し、環境に配慮した取組みがなされていました。

● 観察先

- ・ ラグーナ蒲郡「コジェネシステム」
- ・ トヨタ自動車田原工場の「人と自然にやさしい車づくり」
- ・ ウィンドテック田原「自然資源を利用した風力発電」

参加 30名



トヨタ自動車 田原工場

平成16年11月26日 第16回観察調査

愛・地球博プレ見学ツアー

「愛・地球博」における新エネルギーシステムの見学及び架谷EPOC顧問による「循環型社会とは何?」の講演を聴講し、今後の事業展開における環境対応の一助としました。

● 観察先

- ・ 愛・地球博 長久手会場
- ・ 「新エネ実証施設」「企業パビリオン(一部)」
- ・ 愛知工業大学「循環型社会とは何?」のご講演

参加 36名



「愛・地球博」長久手会場

平成16年9月17日 第15回観察調査

常滑に行こう! —INAX、セントレアの見学—

地域で取組んでいる環境配慮型事業について観察調査を行い、今後の事業展開における環境対応の一助としました。INAXの「価値(PERFORMANCE)」を高め「地球環境への負荷(INPUTとOUTPUT)」を削減する活動のステップ展開、並びに、セントレアの計画段階からの環境に配慮した取組み及び地域全体で資源を有効活用した省エネ・環境保全への取組みは、今後の環境対応への好例となりました。

● 観察先

- ・ (株)INAX 榎戸工場「環境配慮型工場」
- ・ セントレア「エネルギーセンター」

参加 40名



INAX 榎戸工場

平成16年12月3日 第17回観察調査

中部経済産業局共催

新エネルギー施設研修会 “中部の誇る最新新エネ施設”

地球温暖化防止のため導入が急務となっている新エネルギーについて、企業担当者に実際に施設を見学して頂くことにより、理解を深め、新エネルギー導入について考えて頂く機会としました。

● 観察先

- ・ (株)青山高原ウインドファーム「風力発電所」
- ・ 中部電力(株)川越火力発電所「燃料電池発電システム」

参加 41名



青山高原ウインドファーム

啓発の促進



Promoting Enlightenment

環境行動に熱心に取り組むメンバー企業による、環境技術、専門的な知識を習得するための交流会・フォーラムを開催し、EPOCメンバーのレベルアップを図ると共に、様々なステークホルダーの方々に環境行動の普及を図りました。

■ 交流会

平成16年7月7日 第11回交流会

ものづくりから環境経営を考える

本交流会では「ものづくりから環境経営を考える」をテーマに、学識者及び企業トップのそれぞれのお立場から環境と両立した企業経営と環境ビジネスのあり方についてご講演頂きました。

会場 名古屋マリオットアソシアホテル
16階 タワーズボールルーム

参加 500名

主催 環境パートナーシップ・CLUB

後援 中部経済産業局、愛知県、名古屋市

●特別講演

「関西ペイントにおける環境経営」

関西ペイント(株) 常務取締役 敷田 元志 氏

●基調講演

1 「大工コ時代興し「環業革命」へ」

EXPO2005 愛知県パビリオンプロデューサー

山根 一眞 氏

2 「我が国における環境対応の将来動向と企業に求めるもの」

(財) 地球環境戦略研究機構 理事長 森嶌 昭夫 氏

名古屋大学名誉教授 中央環境審議会 会長



平成16年9月1日～2日 第12回交流会

生かそう資源に、やめよう使い捨て

IMS2004 資源循環型生産システムシンポジウム

本交流会では製品の性能アップやコストダウン、企業イメージの向上に役立つ「資源循環型生産システム」をテーマに、日頃の研究成果、最新の生産技術開発及び改善事例などをご発表いただきました。

会場 産業技術記念館 大ホール

参加 420名

主催 資源循環型生産システム研究会、環境パートナーシップ・CLUB

後援 愛知県、名古屋市、中部経済産業局、他

●特別講演

1 「21世紀のエネルギーと燃料電池」

三菱電機(株) 常務取締役 開発本部長

尾形 仁士 氏

2 「揮発性有機化合物リサイクルの動向」

日本リファイン(株) 代表取締役 社長

川瀬 泰人 氏

3 「『愛・地球博』の特徴とその魅力」

(財) 2005年国際博覧会協会 協会事業企画本部長

後藤 隆志 氏

●受賞事例研究発表

1 名古屋市長賞

「研削スラッジ及びホーニング油泥の資源化への改善」

トヨタ自動車(株)

2 環境パートナーシップ・CLUB 会長賞

「FRP精密ろ過プレートの開発」

(株) エステム

3 名古屋商工会議所会頭賞

「省エネ油圧作動油の適用」

(株) デンソー

4 中部産業連盟会長賞

「速硬性常温合材『固まる君ミックス』の開発」

東海舗道(株)

5 中日新聞社賞

「機械工場の研磨カス再生化による廃棄物ゼロ化」

いすゞエンジン製造北海道(株)

6 名古屋市工業研究所所長賞

「ASRガス化融解リサイクルシステムの開発」

新東工業(株)

7 科学技術交流財団理事長賞

「ナノ制御原料に固定化した酵素による無塩素木質漂白技術」

(株) 豊田中央研究所

8 東海技術センター理事長賞

「天然ガスコ・ジェネレーション導入による省エネルギー」

(株) ダイナック

9 名古屋都市産業振興公社理事長賞

「未利用資源である微粒珪砂の有効利用技術の開発」

矢作建設(株)

10 資源循環型生産システム研究会会長賞

「節水を切り口としたトイレリニューアルのソリューションサービス」

(株) INAX

「地蔵寺川放水路のコンピュータシミュレーション」

(株) 山田組

11 資源循環型生産システム研究会技術賞

「リサイクル瓦シャモットを用いたヒートアイランド抑制施設の開発」

瓦3R推進研究会

- 12 資源循環型生産システムシンポジウム事例研究発表奨励賞
 「窯業副産物微粒珪砂キラの有効利用」
 日本国土開発(株)
 「使用済み蛍光灯の共同回収」
 トヨタ自動車北海道(株)

平成17年3月22日 第13回交流会

愛知環境賞設立記念講演会

愛知県において「環境との共生」という価値観を、新しい文化として体現し社会に普及させることを目的として設立された『愛知環境賞』に賛同し、表彰式並びに設立記念講演会・優秀事例のパネル展示による意見交換会を開催致しました。

会場 全日空ホテルズホテルグランコート名古屋
 7階 ザ・グランコート
 参加 220名
 主催 愛知県
 共催 環境パートナーシップ・CLUB
 後援 中部経済産業局、環境省中部地区環境対策調査官事務所、(社)中部経済連合会、名古屋商工会議所
 援助 愛知県「あいちエコロジー選奨事務委託事業」

●基調講演

「EXPOと新しい環境モノづくり」
 ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
 赤池 学 氏

●2005愛知環境賞受賞事例

- 1 金賞
 「ハイブリッド自動車『プリウス』」
 トヨタ自動車(株)
 「中部における使用済み容器包装プラスチックのリサイクル事業」
 新日本製鐵(株)名古屋製鐵所
- 2 銅賞
 「『Re瀬戸』プロダクト」
 愛知県陶磁器工業協同組合「Re瀬戸」プロダクト
- 3 優秀賞
 「ゴミ0フェアいなざわ2004」
 特定非営利活動法人稲沢ゴミ0協議会
 「地球共生都市づくりへ『私たちのゼロエミッション』活動」
 未来創造・21世と市民の会
 「節水ESCOサービス」
 (株)INAX
 「カスケードリサイクルボード(エコパル・パネル)」
 (有)三和建材
 「ごみ焼却灰および飛灰の溶融脱塩による再資源化」
 中部リサイクル(株)
 「家庭用ガスエンジンコーポレーションシステム『エコイル』」
 東邦ガス(株)、大阪ガス(株)、西部ガス(株)、(株)ノーリツ、(株)長府製作所、本田技研工業(株)



■ フォーラム

平成16年10月2日～3日 第17回フォーラム

来て・見て・さわって・知ろう! EPOCエコカーフォーラム

一般市民の方々を対象に、エコカーの現状と未来を知つていただきエコカーへの意識を高め、普及促進を図ることを目的に「エコカーフォーラム」を開催しました。子供用燃料電池自動車の試乗会等を行い、エコカーを身近に感じて頂くことができました。

会場 カラフルタウン岐阜

参加 3万5千名

主催 環境パートナーシップ・CLUB

後援 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術開発機構)、中部経済産業局

援助 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術開発機構)「新エネルギー・省エネルギー」非営利活動促進事業」



平成16年10月17日 第18回フォーラム

平成16年度 3R推進セミナーin中部

(財)クリーン・ジャパン・センター、中部経済産業局と共に「平成16年度 3R推進セミナー in 中部」と題してフォーラムを開催し、産・官・学のそれぞれからご講演を頂きました。

会場 今池ガスビル ガスホール 9階

参加 100名

主催 (財)クリーン・ジャパン・センター

共催 中部経済産業局、環境パートナーシップ・CLUB

連携協力 (財)2005年日本国際博覧会協会

後援 名古屋大学エコトピア科学研究機構、愛知県、名古屋市
援助 経済産業省「3R推進月間」普及・啓発事業

●基調講演

1 「日本型持続可能性の実現と3R: 定量的見地から」

早稲田大学 政治経済学部 教授

中村 慎一郎 氏

2 「循環型経済社会構築に係る今後の課題について」

経済産業省 産業技術環境局 リサイクル推進課長

井内 摂男 氏

●特別講演

「豊島問題を克服するリサイクル技術」

(株)クボタ 環境リサイクル事業部 担当部長

堀井 安雄 氏

平成16年11月15日 第19回フォーラム

水資源を考えよう 最新の造水技術の動向

(財)造水促進センターと共に「水資源を考えよう 最新の造水技術の動向」と題してフォーラムを開催致しました。

会場 栄ガスビル 5階 ガスホール

参加 120名

主催 (財)造水促進センター

共催 環境パートナーシップ・CLUB

後援 経済産業省、愛知県、名古屋大学エコトピア科学研究機構

●講演

1 「省エネルギー型排水処理技術開発」

～愛知万博実証試験の概要～

京都大学大学院 工学研究科都市環境工学専攻 教授

津野 洋 氏

2 「渴水に強い都市造り・雨水利用と用水貯留技術」

(株)大林組 エコロジーエンジニアリング部 グループ長
小川 幸正 氏

3 「オンラインメタン発酵装置による畜糞処理とバイオマス発電」

(株)荏原製作所 水処理統括 技術調査開発室 部長
鈴木 隆幸 氏

4 「水再生利用と広域水循環・豊川流域における調査結果と提言」

豊橋技術科学大学 エコロジー工学系 教授

藤江 幸一 氏

平成17年2月4日 第20回フォーラム

21世紀のエネルギーイコトピアを目指して

愛知県の共催で「21世紀のエネルギーイコトピアを目指して」と題して、エネルギー問題を克服しつつ経済発展を遂げ、新たな社会の構築を目指しフォーラムを開催致しました。尚、今回はEPOC第20回記念フォーラムとしてエネルギー問題の権威にお集まり頂きました。

会場 産業技術記念館 大ホール

参加 350名

主催 環境パートナーシップ・CLUB、愛知県

後援 中部経済産業局、中部経済連合会、名古屋商工会議所、
名古屋大学、新エネルギー財団、省エネルギーセンター、中部産業連盟、科学技術交流財団、水素エネルギー協会、資源循環型生産システム研究会

援助 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
(NEDO技術開発機構)「新エネルギー・省エネルギー・非営利活動促進事業」

●基調講演

1 「新エネルギーによるこれからのエネルギーソリューションとビジネスモデル」

東京農工大学大学院 共生科学技術研究部 教授

柏木 孝夫 氏

2 「地球温暖化対策における新エネルギーの役割」

東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授

山地 廉治 氏

●パネルディスカッション

「愛知県の将来のエネルギーイコトピアを目指して」

コーディネーター

架谷 昌信 氏

パネリスト

岡野 一清 氏(水素エネルギー協会理事)

金田 武司 氏((株)ユニアーサルエネルギー研究所代表取締役)

最首 公司 氏(エネルギー・環境アドバイザー、NPO燃料電池・水素エネルギー・ネットワーク理事)

長谷川 全司 氏(東邦ガス(株)常務取締役総合技術研究室所長 EPOC)



社会への浸透



Spreading Acknowledgement in Society

学校や教育機関との連携により、次世代への環境教育を支援するための研究・調査を行うと共に、継続的に環境美化に資する街頭活動への参加など、環境問題に取り組む企業の行動姿勢を示すことにより、社会的な環境問題への意識喚起を図りました。

■ 社会認知活動

「クリーンキャンペーン・なごや」への参画などを通じて、EPOCの認知度を高め、広く環境に対する関心・問題意識等を一般市民レベルにまで浸透させ、啓発を行いました。

平成16年6月5日

クリーンキャンペーン・なごや

当日午前10時から名古屋市・名古屋都市美化連盟主催の「クリーンキャンペーン・なごや2004」が実施され、EPOCも本キャンペーンに協力し、中区新栄公園および千種区今池西公園周辺で清掃活動を行いました。EPOCからは会員企業等の31団体、79名のご参加をいただきました。約1時間の清掃活動を行い、地域への貢献を行うとともにEPOCの認知度を向上させることができました。

参加 EPOC会員企業等31団体・79名

主催 名古屋市・名古屋都市美化連盟

平成16年4月～平成17年2月

リサイクル推進・啓発活動

平成16年4月から17年2月までの間で、EPOC会員71企業、延べ約6万1千名が参加して、空缶・空き瓶等のゴミ回収や地域清掃を行いました。



■ 総合学習支援

名古屋市が取り組んでいる「なごや環境大学」など、行政の取り組みとの連携を視野に学習支援のあり方を検討しました。

平成16年11月18日

クリーンキャンペーン・なごや

当日午前9時から名古屋市・名古屋都市美化連盟主催の「安心・安全で快適なまちづくりキャンペーン・なごや2004」が実施され、EPOCも本キャンペーンに協力し、中区久屋公園周辺で清掃活動を行いました。EPOCからは会員企業等の23団体、64名のご参加をいただきました。約1時間の清掃活動を行い、地域への貢献を行うとともにEPOCの認知度を向上させることができました。

参加 EPOC会員企業等23団体・64名

主催 名古屋市・名古屋都市美化連盟



■ エコキャンパスフェスティバル

青少年への環境情報の提供、環境意識の高揚を目的にエコキャンパスフェスティバルを開催しました。

平成17年2月10日

第5回エコキャンパスフェスティバル スピーチコンテスト

今年度も大学生によるスピーチコンテストを開催しました。公募で選ばれた大学生（院生含む）5名が意見を発表し、企業側は自社の取り組みを紹介。各スピーチに対して会場の参加者も含め熱心な質疑応答で議論が白熱しました。

なお、最優秀賞は滋賀県立大学の肥田真梨子さん。環境マネジメント事務所（EMO）のISO認証取得支援の取組みを紹介し、その実践力と斬新さ、前向きな姿勢が高く評価されました。参加した学生からは「学生と企業とが同じ条件の中で発表・質問できてよかった」「自分とは異なる視点での発表で刺激になった」「企業の取組みや社会の最先端の考え方に対する触れて勉強になった」などの感想が寄せられました。

会場 大同工業大学 滝春キャンパス

参加 45名

主催 環境パートナーシップ・CLUB

後援 中部経済産業局

● 基調講演

「学生のみなさんへのメッセージ」

中日新聞社 論説委員

飯尾 歩 氏

● 学生発表

- 1 「企業とNPOの協働に向けて」
愛知学院大学情報社会政策学部
4年 若原 敏男 さん
- 2 「滋賀県立大学環境マネジメント事務所（EMO）の取組み」
滋賀県立大学環境科学部
2年 肥田 真梨子 さん
- 3 「資源・エネルギー循環型先進地域としての知多半島モデル構想」
日本福祉大学経済学部
3年 土倉 嘉之 さん
- 4 「ヨシ付着生物による排水浄化」
人間環境大学人間環境学部
4年 喜多 さくら さん
- 5 「循環型社会についてのエネルギー供給形態とそれにいたるまでの技術課題」
名古屋大学大学院工学研究科博士課程
前期1年 岩嶋 伸行 さん

● 企業取組紹介

- 1 「環境と福祉の融合化 ジャパンビバレッジの新しい取組み」

(株)ジャパンビバレッジ 環境推進部

須永 徹 氏

- 2 「プラザにおける環境コミュニケーション」

プラザ工業（株）環境推進部

森下 真行 氏

- 3 「守るエコ 攻めるエコ」

(株)山田組 代表取締役

山田 厚志 氏

コーディネーター

日本福祉大学 非常勤講師

オービス環境マネジメント研究所代表

向井 征二 氏

全体講評

名古屋大学 助教授 小林 敬幸 氏

名古屋産業大学 教授 大矢 銀治 氏

愛知学院大学 教授 西嶋 洋一 氏



国際交流活動

Global Exchanges



欧州視察の実施、海外研修生の受入機関との交流会等を実施し、相互理解を深めることに努めました。

平成16年7月10日～17日

欧州視察団の派遣（スウェーデン、ドイツ、フランス）

三回目となりました今回のEPOC視察団では、過去二回と同様に環境先進地域の欧州を訪問いたしました。具体的にスウェーデンでは、主にVOLVO・ルノーの自動車を解体するECRIS社への訪問とその際、安全並びに環境に配慮した自動車メーカーとして世界的に認知されておりますVOLVO社のレクチャー、そしてシャルマース工科大学、ドイツではハンブルグ工科大学にて、それぞれエネルギー施策を中心とした先端研究についてレクチャーを受けました。更にフランスではトヨタ自動車フランス工場に訪問することが出来ました。

●訪問先

VOLVO社

ECRIS社

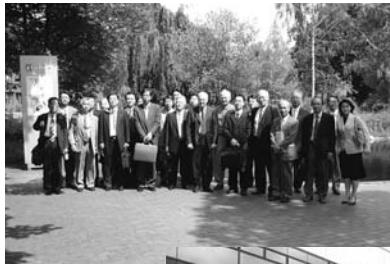
シャルマース工科大学

ハンブルグ工科大学

トヨタ自動車（株）フランス工場（TMMF）



シャルマース工科大学視察



ハンブルグ
工科大学視察



トヨタ自動車
フランス工場視察

平成16年7月5日

（財）海外技術者研修協会（AOTS）との交流

交流会は、最初にEPOCの交流促進部会長（日本ガイシ（株）大野常務）より、完成したばかりの「Annual Report 2003」等を利用し、EPOCの紹介がありました。また、自社のろ過（ウィルス除去）技術についても、デモを交えた紹介がありました。国際交流運営Gリーダー（（株）日立製作所 神田）からは、AOTS交流会や2002年の欧州視察等のこれまでの活動状況を説明しました。続いて、日本特殊陶業殿からは、環境安全部 高木部長・江崎次長から、会社概要と環境への取り組みについてご説明頂きました。

場所 日本特殊陶業（株）

主催 環境パートナーシップ・CLUB

参加者 総勢36名（研修生31名、担当者1名、通訳4名）

※研修生は4ヶ国（インドネシア12名、中国9名、タイ7名、ベトナム3名）と多彩な顔触れとなりました。



平成16年9月29日

「メキシコ全社的品質・生産性向上研修コース」の研修生と交流

中産連・副田(そえだ)主席コンサルタントのご挨拶の後、豊川事業所の恒吉部長より、英語にてプレゼンテーションを行いました。同所では“環境に配慮したパソコンづくり”をスローガンに、再資源化を考慮した製品・部品への取組みや、生産活動から排出される廃棄物のリサイクルへの取組みに注力しているとのことでした。その後、パソコンの生産ライン、リサイクルセンター等を見学しました。

場所 (株)日立製作所 豊川事業所

主催 独立行政法人 国際協力事業団(JICA)

参加者 総勢18名(研修生12名、中産連1名(コーディネーター)、通訳1名、EPOC4名)



平成16年10月28日

交流先の開拓(相互紹介)

過去、アイセット・APEC・JETRO等と交流会を実施して参りました。一方で、AOTS殿の様に継続的な交流(1~2回/年)を目的に、03年10月に続き、国際連合地域開発センターを訪問。小野川所長、広報室脇阪氏と情報交換会を行いました。

平成16年12月9日

「生産性向上研修コース」モルドバ研修生と交流

独立行政法人 国際協力事業団(JICA)主催「生産性向上研修コース」にご参加のモルドバ研修生と交流会を実施しました。当日の午前中は、EPOCの活動概要をプレゼンテーションするとともに活発な意見交換を行いました。引き続き、午後からはEPOCの副会長会社である中部電力(株)殿の碧南火力発電所に訪問し、我が国のエネルギー施策と同社における環境配慮型火力発電所のレクチャー及び意見交換、そして火力発電のプラントを見学いたしました。

場所 午前：中部産業連盟内研修室

午後：中部電力(株) 碧南火力発電所

主催 独立行政法人 国際協力事業団(JICA)

参加者 総勢10名

(モルドバ研修生8名、EPOC1名、通訳1名)



企画活動

Planning Activities

部会間にまたがるEPOC全体のイベント活動を推進すると共に、共通課題の検討を行なうことにより、円滑なEPOC運営の基盤を強化しました。また、EPOC会員ニーズを活かした活動を展開していくため、次期ビジョンの検討を開始しました。

- ①部会間にまたがるイベント活動推進、共通課題の検討
- ②活動計画、予算案の検討及び部会間調整等
- ③2010年ビジョンの検討W/G設置検討

広報活動

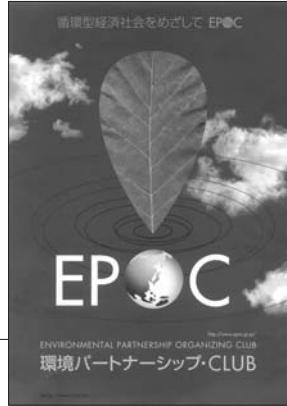
Public Relations

会員増強とともに、EPOC活動、EPOC会員の環境行動の紹介などインターネットを活用して積極的な情報提供を図りました。

- ①平成16年度版 EPOCパンフレット発行(平成16年7月)
- ②平成15年度版 EPOCアニュアルレポート発行(平成16年7月)
- ③広報活動としてのEPOCホームページの改訂(随時)
- ④EPOC EXPRESS 139号(04.4.1)～194号(05.3.14)を会員に発信
- ⑤エコプロダクツ2004に出展(平成16年12月9日～11日)
- ⑥「バックヤードツアー」「エコ・トークセッション」プレス発表
(中部経済産業局内記者クラブ:平成16年12月20日)



EPOCパンフレット



EPOCアニュアルレポート2003



EPOC EXPRESS



環境用語辞典「エコノート」(改訂第3版)

環境パートナーシップ・CLUBでは、ご好評により環境用語辞典「エコノート」(改訂第3版)を制作いたしました。文庫本サイズでいつでもどこでも、手軽にご使用いただけます。

- ・総ページ数／192ページ
- ・収録用語数／284語
- ・大きさ／文庫本サイズ(A6版)

その他



Others

①委員就任

- ・名古屋大学エコトピア科学研究機構運営協議員
(名古屋大学エコトピア科学研究機構)
 - ・中部地区環境パートナーシッププラザ運営検討委員会
(環境省)
 - ・環境コミュニティビジネスに関する調査研究会委員
(中部経済産業局)
 - ・水再生利用先端技術地域適用調査委員会
((財)造水推進センター)
 - ・あいち地球温暖化防止戦略策定検討会(愛知県環境部)
 - ・平成16年度体験的環境学習推進事業評価委員会委員
(愛知県環境部)
 - ・愛知県新エネルギー関連産業振興計画策定委員会
(愛知県産業労働部)
 - ・愛知県エコタウン推進検討委員会(愛知県環境部)
 - ・中部ESCO連絡会議委員(中部経済産業局)
 - ・「なごや環境大学」実行委員会委員就任(名古屋市)
 - ・「愛知県環境教育基本方針検討会」委員就任
(愛知県環境部環境政策課)

②支援

- ・あいちエコテクノフェア2004(愛知県)

③連携協定

- ・名古屋大学エコトピア科学研究機構(平成16年10月1日)

四)

④後援名義

- ・「第28回基礎化学工学演習講座」
(主催:(社)化学工学会東海支部)
(開催日:平成16年6月16日~18日、23日~25日)
 - ・「愛知万博から地球環境を考える」
(主催:名古屋市、(社)日本技術士会、他)
(開催日:平成16年6月20日)
 - ・「愛知県・名古屋市地域結集型共同研究事業 事業終了報告会」
(主催:(財)科学技術交流財団)
(開催日:平成16年8月30日)
 - ・「パースペクティブ・エネルギー・チェーン1
—電力と熱と燃料のネットワークー」
(主催:(社)化学工学会エネルギー部会)
(開催日:平成16年12月10日)
 - ・「パースペクティブ・エネルギー・チェーン2
—いよいよ発効する京都議定書に向けてー」
(主催:(社)化学工学会エネルギー部会)
(開催日:平成17年2月9日)
 - ・Re·STEPフォーラム
(主催:中部経済産業局)

(開催日:平成17年3月17日)

⑤講師派遣

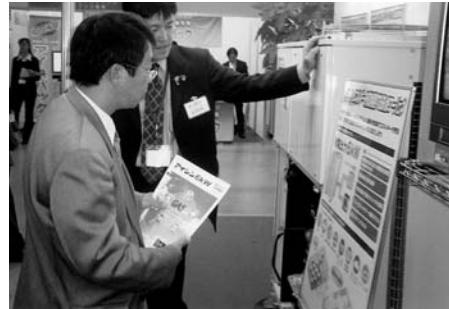
- ・「愛知万博から地球環境を考える」
(主催:名古屋市、(社)日本技術士会、他)
(開催:平成16年6月20日)
 - ・「リサイクル社会に未来はあるか」
(主催:中部の環境を考える会)
(開催:平成16年7月18日)

⑥プレゼンテーション

- ・「環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) の概要と活動紹介」
(民主党国会议員6名様、開催日：平成16年5月11日)
 - ・「環境パートナーシップ・CLUB (EPOC) の概要と活動紹介」
(鳥取県議会議員8名様、開催日：平成16年8月25日)

⑦取材

- ・「EXPOバックヤードツアー」の取り組みについて
(NHK(日本放送協会)名古屋放送局、放映日: 平成16年9月22日)



あいちエコテクノフェア2004

中日新聞
10月9日掲載

総会



General Assembly

平成16年7月7日

平成16年度 総会

7月7日、238会員（委任状含）の出席の下、「環境パートナーシップ・CLUB」の平成16年度総会が名古屋マリオットアソシアホテルにおいて開催されました。

冒頭、池淵浩介EPOC会長（トヨタ自動車（株）代表取締役副会長）から挨拶があり、引き続いて竹内弘之事務局長（（社）中部産業連盟専務理事）から議案書に沿って、

- (1) 平成15年度活動報告及び収支決算書承認の件
- (2) 平成16年度活動計画及び収支予算審議決定の件
- (3) 規約改正の件
- (4) 理事改選の件

の4議案について説明がなされました。各議案はそれぞれ出席会員に諮られ、何れも原案通り承認されました。

場所 名古屋マリオットアソシアホテル16階

「タワーズポールルーム」

出席者 238会員

理事会



Board of Directors

平成16年4月28日 16:00～17:00

第9回 理事会

●議件

万国博覧会参画の件

場所 名古屋東急ホテル4階「栄の間」

出席者 理事15名 監事1名 顧問3名

平成16年7月7日 15:30～16:30

第10回 理事会

●議件

1 平成15年度活動報告及び収支決算書承認の件

2 理事改選の件

場所 名古屋マリオットアソシアホテル16階「サルビア」

出席者 理事18名 監事1名 顧問6名

平成17年3月8日 16:00～17:00

第11回 理事会

●議件

1 平成16年度 活動報告（案）の件

2 「愛・地球博」進捗報告の件

3 平成17年度 活動計画及び収支予算審議決定の件

場所 東桜会館1階「第2会議室」

出席者 理事18名 監事1名 顧問3名

意見交流会



Meeting for Opinion Exchange



平成17年3月8日 17:15～18:00

第6回 意見交流会

●テーマ

中部電力（株）の環境経営

場所 東桜会館1階「第2会議室」

出席者 理事18名 監事1名 顧問3名

幹事会



Executive Committee

平成16年4月13日 16:00～18:00

第15回 幹事会

●議件

1 幹事長交代の件

2 万国博覧会参画の件

場所 中産連ビル本館B1会議室

出席者 幹事19名

平成16年5月25日 16:30～18:00

第16回 幹事会

●議件

1 平成15年度 活動報告及び収支決算書承認の件

2 平成16年度 活動計画及び収支予算審議決定の件

3 規約改正の件

4 理事改選の件

場所 中部経済産業局2階会議室

出席者 幹事25名

平成16年12月1日 16:30～18:00

第17回 幹事会

●議件

1 幹事長選任の件

2 平成16年度中間活動報告の件

3 「愛・地球博」進捗報告の件

4 平成17年度活動計画及び収支予算の件

場所 中部経済産業局2階会議室

出席者 幹事25名

企画調整委員会



Planning and Coordination Committee

平成16年6月22日 17:00～20:00

第7回 企画調整委員会

場所 中部経済産業局1階大会議室

出席者 9名

平成16年11月1日 16:00～18:00

第8回 企画調整委員会

場所 トヨタ自動車(株)名古屋ビル5階小ホール

出席者 9名

会勢・収支



Number of Members/ Balance

会勢

平成17年3月末日現在での会員数は321社でした。

収支

以上の諸活動の結果として、収支実績は本年度収入54,186,144円に対して、48,846,842円を支出し、5,339,302円を次年度へ繰り越しました。





ANNUAL REPORT
2004

EPOC ENVIRONMENTAL
PARTNERSHIP
ORGANIZING
CLUB

編集・発行

環境パートナーシップ・CLUB総合事務局

〒461-8580 名古屋市東区白壁3-12-13 社団法人中部産業連盟 内

TEL.052-931-9825 FAX.052-931-5198

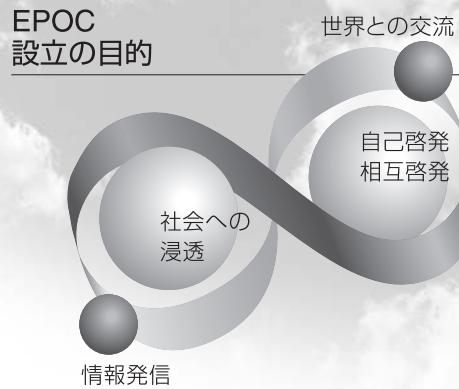
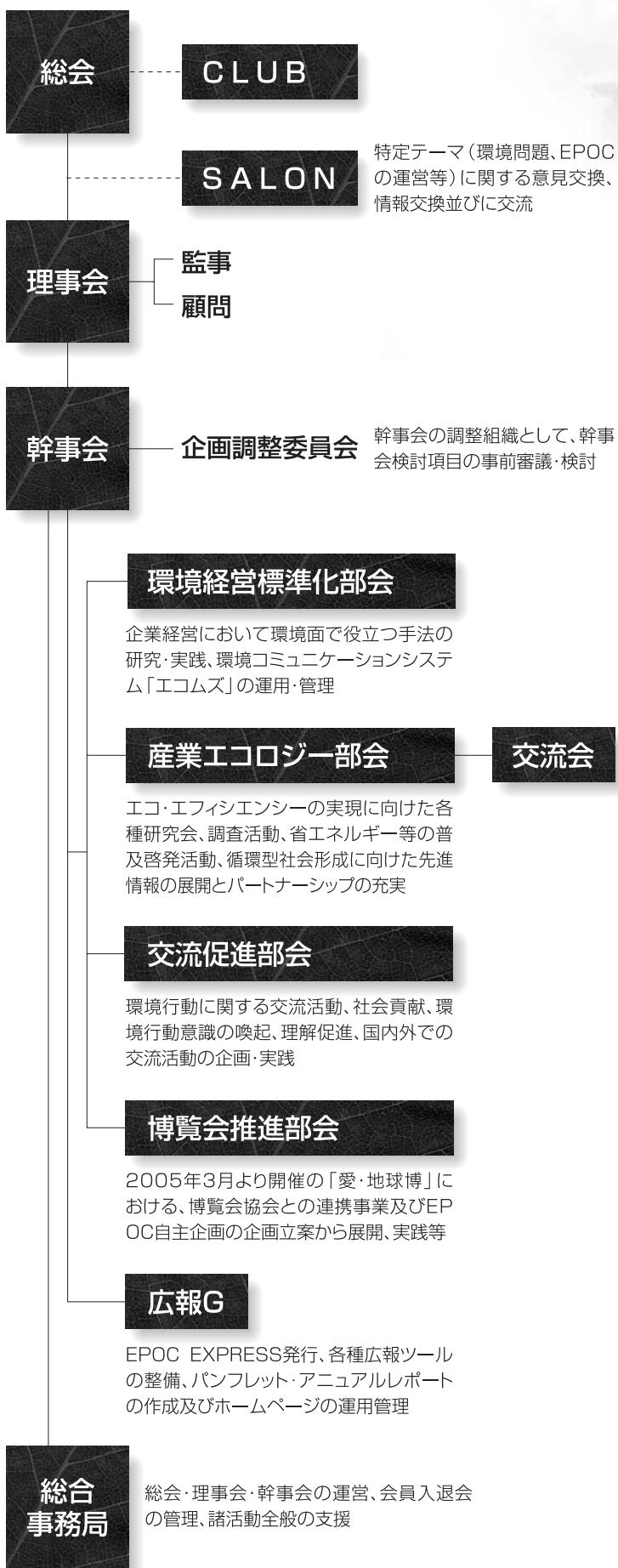
www.epoc.gr.jp/

R100 古紙配合率100%再生紙を
使用しています。

**PRINTED WITH
SOY INK** 印刷にはソイインク(大豆油)
を使用しています。

2005.5

組織体制



活動の計画 -2005年度-

- 万博推進事業
 - ・バックヤードツアー
 - ・エコ・トークセッション
- 環境経営手法の開発・普及
 - ・環境コミュニケーションシステム「エコムズ」の行動標準化
 - ・会員企業の環境活動・取組みの支援策の実行
- エコエフィシエンシーへの挑戦
 - ・地域連携による循環型社会構築（エコタウン）研究会
 - ・省エネルギー促進研究会
 - ・環境汚染事故未然防止研究会
 - ・環境人材育成セミナー
 - ・資源循環技術セミナー
 - ・最先端の環境施設・技術の見学
- 啓発の促進
 - ・IMS国際シンポジウム
 - ・エコカーフォーラム
 - ・省エネルギー促進フォーラム
 - ・3R活動推進フォーラム
 - ・エコビジネスフォーラム
- 社会への浸透
 - ・総合学習支援の研究
 - ・エコキャンバスフェスティバル支援
 - ・クリーンキャンペーンなごやへの参画
 - ・リサイクル推進・啓発活動
- 国際交流の促進
 - ・海外研修生、中部地区大学留学生との交流会
- 企画活動
 - ・2010年ビジョンの検討
 - ・部会間・運営面における課題への対応
- 広報活動
 - ・会員との相互コミュニケーション向上
 - ・EPOC万博事業のPR活動
 - ・パンフレット・アニュアルレポートの作成
 - ・ホームページの管理
 - ・活動広報ツールの整備

役員・顧問 (2005年4月現在)

会長 池淵 浩介 トヨタ自動車㈱代表取締役副会長

副会長 松下 鑑 日本ガイシ㈱代表取締役社長

副会長 杉野 正博 INAX代表取締役社長

副会長 水野 耕太郎 東邦ガス㈱代表取締役社長

副会長 川口 文夫 中部電力㈱代表取締役社長

副会長 深谷 紘一 (株)デンソー代表取締役社長

理事 林 稔 アイシン精機㈱代表取締役副社長

理事 川本 敏雄 イオン(中部カンパニー)支社長

理事 川嶋 一元 出光興産㈱愛知製油所所長

理事 森 康時 (株)荏原製作所中部支社理事支社長

理事 矢野 武 新東工業㈱代表取締役副会長

理事 二村 文友 新日本製鐵㈱代表取締役名古屋製鐵所長

理事 渡邊 高峯 東海旅客鉄道㈱顧問

理事 石川 忠司 (株)豊田自動織機代表取締役社長

理事 佐藤 充宏 (株)ノリタケカンパニーリミテド常務取締役

理事 小池 康夫 富士通㈱経営執行役東海営業本部長

理事 菅原 徹明 ブラザー工業㈱代表取締役副会長

理事 三浦 悟 三井物産㈱常務執行役員中部支社長

理事 内藤 明人 リンナイ㈱代表取締役会長

監事 石塚 芳三 石塚硝子㈱代表取締役会長

監事 舟橋紳吉郎 シヤチハタ㈱代表取締役社長

総合事務局長 竹内 弘之 (社)中部産業連盟専務理事総合事業本部長

顧問 小川 秀樹 経済産業省中部経済産業局長

顧問 神田 真秋 愛知県知事

顧問 古田 肇 岐阜県知事

顧問 野呂 昭彦 三重県知事

顧問 松原 武久 名古屋市市長

顧問 鈴木 公平 豊田市市長

顧問 小川 英次 中京大学学長

顧問 架谷 昌信 愛知工業大学教授

顧問 安井 義博 EPOC前会長(ブラザー工業㈱代表取締役会長)

理事19名 監事2名 総合事務局長1名 顧問9名

会員企業・団体 (2005年4月現在323社)

アート金属工業株式会社

アイカ工業株式会社 新川工場

愛三工業株式会社

アイシン・エィ・ダブリュ株式会社

アイシン・エーアイ株式会社

アイシン精機株式会社

アイシン・高丘株式会社

アイセイ化学株式会社

愛知海運株式会社

愛知製鋼株式会社

アイボル株式会社 豊田工場

アイズ株式会社

株式会社青山製作所

明知ガラス株式会社

浅野段ボール株式会社

旭化成エンジニアリング株式会社

旭鉄工株式会社

アスモ株式会社

アミタ株式会社

株式会社アド・パブリシティ

アンサン株式会社

イオン株式会社(中部カンパニー)

池畠運送株式会社

石川島播磨重工業株式会社

石塚硝子株式会社

株式会社イデュー

出光興産株式会社愛知製油所

株式会社伊藤工務店

伊藤忠紙パレット株式会社 名古屋支店

株式会社INAX

株式会社イマイックコーポレーション

株式会社永楽開発

有限会社エクソンモービル

株式会社エスランギフ

株式会社エックス都市研究所

エナジー・サポート株式会社

エヌ・ジー・エー・アドレック株式会社

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東海

株式会社荏原製作所 中部支社

王子製紙株式会社 春日井工場

応用地質株式会社

株式会社大垣共立銀行

大島造園土木株式会社

大橋鉄工株式会社

株式会社大船組名古屋支店

岡谷鋼機株式会社

株式会社小川屋

株式会社オディックス

オリエント演器コンピュータ株式会社

オルガノ株式会社

財団法人 科学技術交流財團

鹿島建設株式会社 名古屋支店

株式会社カティック

株式会社加藤建設

株式会社兼子

カネハツ食品株式会社

カヤハ工業株式会社 岐阜北工場

川崎設備工業株式会社

株式会社環境管理センター

関西ペイント株式会社

関東自動車工業株式会社

株式会社キャラード

京三電機株式会社

株式会社協豊製作所

共和産業株式会社

近畿日本ツースリー株式会社

株式会社会議さん 中部支社

栗田工業株式会社

有限公司佳花園

株式会社ハリ作製作所

高圧ガス保安協会 中部支社

廣告社株式会社 名古屋支店

光生アルミニウム工業株式会社

株式会社湯池組 名古屋支店

光洋精工株式会社

光洋マテリアル株式会社

高興興業株式会社

株式会社興和工業所

KOA株式会社

コカ・コーラセントラルジャパン株式会社

財団法人国際環境技術移転研究センター

小島プロレス株式会社

小林記録紙株式会社

小松開発工業株式会社

ゴムノナカ株式会社

株式会社コンクリート 中部支社

株式会社佐賀賀工所

笠谷印刷株式会社

株式会社サザンマーケティング

佐藤工業株式会社 名古屋支店

株式会社サンヨークリエイト

株式会社三五

三洋電機株式会社 岐阜事業所

三和電気土木工事株式会社

GAC株式会社

株式会社シーテック

JFEステンレス株式会社 名古屋支社

株式会社実践経営研究所

株式会社篠田製作所

清水建設株式会社 名古屋支店

シヤチハタ株式会社

株式会社ジーパンビレッジ

株式会社ナカムラ

株式会社ナカムラ